

龍藏院寺報

第六号

発行所

匠瑳市野手1824

龍藏院法務所



暑中見舞い申し上げます。檀家の皆さまには、お盆を迎え、先祖の墓参りをして、今命あることの意味を改めて考え、過去・現在と、先祖から受け継いだ命を、次の世代にバトンタッチして、自分の命も永遠であるという境地になりたいものです。

(一)今年のお盆号は、仏祖お釈迦さまの最後に残した教え(遺教經)の意味について十五項目にわかりやすくまとめました。

①私の滅後は、戒律を師と仰ぐべし。戒の精神は、日々の生活正すことなり。

②よく五欲を制すとは意根の放縱を制すことなり。これ即ち戒律の真義なり。

③飲食は当に病を癒す薬の如く、好悪をいうことなかれ、飢渴を除くに止むるべし。

④人生は無常なるが故に時は貴重なり、早く怠慢を除くべし。

⑤瞋恚の害は善根を損い好名聞を壊す。堪忍の徳は持戒苦行にも勝れたり。

⑥憍慢と諂曲の心が起らば速やかにこれを滅すべし。

⑦少欲の人は無求無欲なれば、求不得の苦患なし、少欲なる者は即ち涅槃あり。

⑧知足の法を觀ずべし。知足の人は貧しと言えども心中富樂安穩なり。

⑨世間の束縛や欲の執着はつとめて遠く離れるべし。

⑩正に勤めて精進すべし。たとえば少水の常に流れて則ちよく石を穿つが如し。

⑪学芸はよく記憶し念も忘れることなくば、煩惱のつけ入る余地無し。

⑫常に精進して禪定を習い修むべし。定は則ち智慧の源流なり。

⑬智慧あれば則ち貧著なし。実の智慧は老病死の苦海を渡る堅牢の船の如し。

⑭速やかに乱心戲論を捨離すべし。戲論は即ち時の空費にして心を乱すものなり。

⑮我が法益は即ち良医の病を知って施薬するが如し、服不服は医の責にあらず。

(二)觀音經(偈文の解釈)

經文の直訳を事釈・象徴(具体的なものによつて表す)として考えるのが理釈。

人生の苦難には七つの種類がある。この七難を觀音様が救つて

(以上 遺教經のポイント)

下さるといふ経文の内容は次の通り。

(原文) 火難

(事釈) 火事に遭う事

(理釈) 火は煩惱の象徴、心の中の煩惱の火が自分を焼き尽くすということ。

(原文) 水難

(事釈) 水に溺れる事

(理釈) 水は欲望の象徴、欲望に溺れ前後の見境がつかなくなること。

(原文) 風難

(事釈) 嵐に遭難する事

(理釈) 人生は平穩ではない。突然嵐のように人生が翻弄されることがある、という意味。

(原文) 刀杖難

(事釈) 暴力により危害を受ける事

(理釈) 言葉が人を傷つける。心が理想と現実に引き裂かれる状態とみることもできる。心が刀で切り裂かれた状態。

(原文) 鬼難

(事釈) 鬼に襲われる事

(理釈) 心の中に鬼が巣くっている(迷い・慢心・妬み・増悪など) マイナス感情が鬼。

(原文) 枷鎖難

(事釈) 無実の罪で捕らわれる事

(理釈) 心に足かせがかけてられて自由に動かなくなる状態。人間は自由ではない。世間体、地位にとられ身動きできなくなるケースあり。縛りつけられているものからの自由になる。自分の才能を生かすことが必要。

(原文) 怨賊難

(事釈) 海賊に襲われる事

(理釈) 人生は旅である、旅の途中でさまざまな難所があり、四苦八苦する。これを怨賊とみる。



※龍藏院本尊 観音様

責任役員・檀徒総交代のお知らせ

石橋勲（責任役員総代）

山崎三郎、土屋正。林照夫（総代）

六月三十日付退任されました。

永年に亘りご苦勞様でした。

新役員七月一日就任

大久保庸雄（責任役員・総代）

越川 昇（檀徒総代）

熱田 康雄（檀徒総代）

嶋田 一夫（檀徒総代）

尚、東小笹慈眼寺・阿彌陀院・西小笹妙福寺・登

戸吉祥院等末寺院を含め顧問として、

龍藏院檀徒、

高橋正勝氏が就任されました。



釈迦涅槃図お絵解きのご案内

来る十月二日の日曜日、八日市場の市民ふれあいセンターにおきまして、十三時半より（受付は十三時より）「釈迦涅槃図のお絵解き」の講演が行われます。

これは、江戸時代に多くの人々に親しまれていた「古典芸能」とでもいべきもので、お釈迦さまのお亡くなりになるときの最後の教えを物語風にかかりやすく示したものです。今回は、奈良の長谷寺・鎌倉の長谷寺・長野の長谷寺とある「日本三長谷寺」の一つ、長野の長谷寺の住職婦人の岡澤恭子先生が特別に匝瑳市にいらして講演をしていただきます。

「釈迦涅槃図お絵解き」は、お釈迦様の最期のご様子と最後の教えを示したものであり、これからの生き方のヒントや身近な亡くなった方への感謝・追善の思いを感じることが出来る大変ありがたい催しであります。このたびは、日頃お世話になっております檀信徒の皆様方や新盆各家の皆様、仏教に関心のある方々のために、真言宗智山派下総匝瑳教区が主催して実現の運びになった催しでありますので、**入場は無料で費用は一切かかりません。**大変貴重な講演ですので、この機会に多くの皆様の参加をお呼びかけ致します。なお事前申込は必要無く、当日直接会場にお越し下さって構いませんが、席を確保されたい方は副住職宛（090-9319-4145）に出席者名を連絡下さい。



（主な行事）

◆ 一月五日

新年初祈願護摩法要

◆ 一月十六日

初墓参り（寺への年賀）

◆ 二月十五日

お釈迦様涅槃絵
しゃかさまねはんえ

◆ 八月十二日

盆総供養

新盆精霊特別法要

無縁精霊施餓鬼会
せがきえ

檀家先祖代々各霊

戦没英霊

戦災殉難者等

◆ 八月十三日

墓参（寺への盆供）

◆ 春秋彼岸

◆ 会社・役所等の社員職員の研修会申込次第随時行います。

